

研究仮説	生徒が自己の変容や成長を実感できる学習指導の充実を図ることができれば、自己の生活に課題をもって前向きに生活していく態度を育てができるであろう。
------	---

1 題材名 補修の技術を生かしてエコ巾着をつくろう

2 題材の目標

- (1) 布を用いた物の製作に関心をもって学習活動に取り組み、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- (2) 布を用いた物の製作において、製作計画や方法を自分なりに工夫している。
(生活を工夫し創造する能力)
- (3) 安全で効率よく、目的に応じた縫い方で布を用いた物の製作をすることができる。
(生活の技能)
- (4) 衣服の補修の方法や、布を用いた物の製作に関する知識を身に付けている。
(生活や技術についての知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 教材観

近年は大型衣料品店の増加により、安くて品質の良い衣料品が手軽に購入できるようになった。そのため、消費者は流行が変わったり補修が必要になったりすると、すぐに廃棄してしまう傾向にある。このような社会で生活している生徒にとって、衣服を大切に着用していくとする意識は低いと考えられる。本題材では、手ぬぐいで簡単にできるエコ巾着を製作することで、資源や環境に関心をもち、身近な物を最大限に活用し、大切に使うことの大切さを意識させたい。そして、日常の衣服をより長く着用できるようにするために、衣服の補修に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得することをねらいとしている。

(2) 生徒の実態〈男子*人 女子*人 計*人〉

2年*組*人 アンケート*月実施

本学級の生徒は、家庭において衣服の補修をした経験が少なく、ほとんどが親任せである。また、手縫いの基本的な技能に関しては小学校で学習しているが、実際には家庭で裁縫をする機会が少ないため、玉どめや並み縫いが「できない」、または「できるかわからない」という生徒が*割弱いる。

	できる	できない	わからない
玉結びができる	*人	*人	*人
玉どめができる	*人	*人	*人
並み縫いができる	*人	*人	*人
返し縫いができる	*人	*人	*人
ボタンが付けられる	*人	*人	*人

また、課題に対する取り組みは早いが、わからないところを積極的に質問したり、友人に聞いたりすることができず、自力で解決できない生徒も少なくない。

(3) 指導観

指導にあたっては、手縫いの基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けていない生徒がいることを踏まえ、地域の人材を活用したティーム・ティーチングによる授業や実物見本・拡大見本、VTRなどの教材教具を工夫し、個々の生徒が新しい技術を習得するよさを実感できるように努めたい。さらに、習得した技術を活用して、製作する活動を取り入れることで、生活をより豊かに工夫することの楽しさや大切さを意識させたい。そして、自分の衣生活に関心をもち、自ら課題に前向きに取り組む姿勢を育てたい。

4 指導計画（7時間扱い）

時	学習活動	評価計画				
		関	思	技	知	評価規準
1	エコ巾着のデザインを考える	◎			○	○布を用いた物の製作に関心をもって、学習に取り組もうとしている。 〈観察・学習カード〉
2	製作計画を立てる。		◎			○製作計画や方法について自分なりに工夫している。 〈観察、ワークシート〉
3	布に印を付け、裁断する。			◎	○	○布を用いた物の製作手順と用具の安全な取扱いを理解している。 〈観察、作品〉
4 本時	まつり縫いの特徴を理解し、技術を身に付ける。			◎	○	○まつり縫いの特徴と縫い方を理解し、まつり縫いをすることができる。 〈観察、ワークシート、練習用布〉
5	目的に応じた縫い方で、作品を製作する。			◎	○	○安全で効率よく、目的に応じた縫い方で製作することができる。 〈観察、作品〉
6	まつり縫いの技術を生かして、作品を製作する。			◎	○	○布地に適した方法でまつり縫いをすることができる。 〈観察、作品〉
7	エコ巾着の取り出し口にスナップボタンを付ける。			◎	○	○スナップボタンを目的に応じた縫い方で付けることができる。 〈観察、作品〉

5 本時の指導

(1) 目標

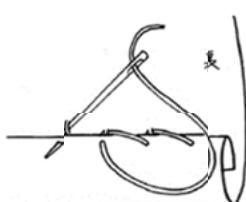
- ・まつり縫いの特徴を知り、縫い方を理解することができる。（生活や技術についての知識・理解）
- ・練習用布を使って、まつり縫いをすることができる。（生活の技能）

(2) 準備・資料

生徒：裁縫セット

教師：練習用の布、まつり縫いの実物見本、拡大模型、VTR、ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点（○は個への配慮）と評価
1 本時の学習課題を確認する。 まつり縫いをマスターしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・まつり縫いが使われている衣服や小物を想起させ、実物を提示することで、身近なものに使われていることを確認し、まつり縫いへの関心を高める。
2 まつり縫いの特徴を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・まつり縫いがズボンのすそ上げに使用されていることから、どのような特徴があるか予想させる。 ・まつり縫いの実物見本を各班に配布し観察することで、まつり縫いの特徴を捉えられるようにする。 ・並み縫いの実物見本と比較することで、まつり縫いの特徴である「表に縫い目が目立たない」ことに気付けるようにする。 ・「表に縫い目が目立たない」ようにするために、布と同色の糸を使用し、一本取りで縫われていることにも触れる。
3 まつり縫いの縫い方のポイントを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 0.8 cm程度の間隔で縫う。 ② 表に縫い目が目立たないように縫う。 ③ 玉結び、玉どめが目立たない場所にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まつり縫いの縫い方を実物見本や拡大模型、VTR等で示し、ワークシートにまとめられるようにする。 ・まつり縫いの特徴について再度確認し、「まつり縫いのポイント」につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> (評) まつり縫いの特徴を知り、縫い方を理解している。 (観察、ワークシート) </div>
4 まつり縫いの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 練習用布を、まつり縫いで縫う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まつり縫いの特徴（表に縫い目が出ない）を捉えて作業するように助言する。 ・練習用布にはチェックの柄を用い、柄の幅を目安にできるようにする。 ・VTRを示しながら、一緒に針を動かせるようにする。 ・少しずつ区切り、ポイントを解説しながらゆっくりと行う。 <p>○事前打合せをしておいた保護者センター4人が、生徒の活動状況に応じて支援に入る。</p> <p>○つまずいている生徒には拡大模型を用いて、縫い方を確認できるようになる。</p> <p>○左利きの生徒には、左手で縫った見本を準備しておく。</p> <p>○生徒の様子を観察し、やり方の分からぬ生徒や作業の遅れている生徒をチェックし、指導に生かせるようにする。</p> 
(2) 相互評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・まつり縫いをした練習用布をグループで見せ合うよう指示する。 ・それぞれの縫い目について、ワークシートの項目にそって一つずつグループでチェックしていくよう指示する。 ・気付いたことやアドバイスを、グループの人々に伝えることができる雰囲気をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> (評) 練習用布を使って、まつり縫いをすることができる。 (観察、練習用布) </div>
5 本時のまとめをする。 ワークシートに自己評価を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・見本や相互評価の結果を見ながら、ワークシートの項目にそって「まつり縫い」を振り返り、自己評価をする。 ・次回は、まつり縫いの技術を活用して、エコ巾着を製作することを知らせ、意欲をもてるようになる。